

第72回 みず色の風コンサート

“ピアノとヴァイオリンによるフランスの薫り”



ピアノ 鮫島明子

12/17 日

14:00開演(13:30開場)

横浜市 長浜ホール

京急・能見台駅/シーサイドライン・幸浦駅 徒歩15分



ヴァイオリン 七澤清貴

モーツァルト：幻想曲二短調 K397
ショパン：アンダンテスピナートと
華麗なる大ポロネーズ op.22
ベートーヴェン：ロマンス第2番 ヘ長調
フォーレ：ロマンス、ソナタ第1番 他
※プログラムの一部を変更する場合がございます。

Ticket

全席自由 2,000円

チケットは長浜ホール窓口でご購入、または●電話●ファックス●メールでご予約いただけます。

※ファックス、メールでのお申し込みは、公演名、氏名、電話番号、枚数をご記入ください。

- 電話 045-782-7371
- ファックス 045-782-7389
- メール nagahama-hall@nagahama-hall.com

※客席へは13:30よりチケット番号順にご入場となります。
(予約または購入先着順)

※前売で完売した場合、当日券の販売はございません。

※未就学のお子様の入場はご遠慮ください。

お問い合わせ：長浜ホール 横浜市金沢区長浜114-4 長浜野口記念公園内 <http://www.nagahama-hall.com>
京急・能見台駅より徒歩15分/シーサイドライン・幸浦駅より徒歩15分

主催：横浜市 長浜ホール (指定管理者:横浜メディアアド・相鉄・神奈川共立共同事業体)/(有)ななさわ音楽工房

●鮫島明子／ピアノ

1985年、桐朋学園大学卒業後、渡仏。パリ・エコールノルマル音楽院演奏家資格及びコンサートイスト資格を最優秀で修了後、1989年サン・ノン・ラ・ブルテッシュ国際ピアノコンクール第2位、同時に課題曲最優秀演奏賞受賞。パリを中心にフランスで演奏活動を行い、1989年秋に帰国。草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルでのアシスタントピアニスト、内外の演奏家との共演、韓国とマレーシアでの室内楽&リサイタル、日本文化人訪中団の一員として中国を訪問するなど幅広く活動。東京と横浜でリサイタルや室内楽など数多くのコンサートを行い、特にテーマ性を持ったリサイタルやトークを織り交ぜながらのコンサートでは音楽の魅力をわかりやすく伝えると共に、作品への深い解釈と繊細で凛とした美しいタッチによる演奏は高い評価を集めている。

後進の指導ではオーディションやコンクールの審査、公開レッスンの講師など務めるほか、日頃から幅広い年齢層における個々の身体技法・感覚・思考の繋がりを追求したトータルなレッスンを展開する。そのモットーは“むづかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く！”。

ナミレコードからこれまでにモーツァルトとショパンのCDがリリース。各音楽紙で特選盤、推薦盤として絶賛される。

ピアノを辛島仔緒子、松岡貞子、ヴラド・ペルルミュテル、フランス・クリダ、ジャン・フランソワ・エッセールの各氏に、室内楽を三善晃、山根美代子、セルジュ・ユレル、セルジュ・コロアの各氏に師事。

●七澤清貴／ヴァイオリン

幼少より父七澤八郎、ブロードス・アール、ルイ・グレラー各氏にヴァイオリンの手ほどきを受ける。東京藝術大学附属音楽高校、同藝術大学を卒業。読売新人賞を受ける。在学中、多久興、海野義雄の各氏に師事。卒業と同時に渡欧。スイスにてロスタルコンクール第1位。以後2年間マックス・ロスタル氏のもとでカール・フレッシュのメソッドを学ぶ。スイスビエール市立交響楽団で3年間コンサートマスターを務める。

パリ・エコールノルマルに入学し、フォンタネローザ氏に師事し、1年で首席で卒業する。スイス、パリでコンチェルトやリサイタルを数多く行い帰国。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団で20年間コンサートマスターを務める。

主要オーケストラの客演コンサートマスターを歴任。

室内楽演奏集団「アンサンブル・ソノール」「カルテットN」主宰。

複数のコンサートシリーズの企画、運営、演奏を全国で展開している。

長浜ホール

ACCESS MAP



〒236-0011

横浜市金沢区長浜114-4

長浜野口記念公園内

TEL : 045-782-7371

FAX : 045-782-7389

✉ nagahama-hall@nagahama-hall.com

<https://www.nagahama-hall.com/>

●京浜急行「能見台駅」下車 徒歩15分

●金沢シーサイドライン「幸浦駅」下車 徒歩15分

ご存知でしたか？

長浜ホールに隣接して小さな白壁の建物があります。これは、野口英世博士ゆかりの「旧細菌検査室」です。明治28年(1895年)に長浜検疫所の建物群のひとつとして建てられましたが、大正12年(1923年)の関東大震災で倒壊、その翌年再建されたものです。

野口英世博士は明治32年(1899年)に検疫医官補としてこの地に勤務しました。当時博士の前には、長浜地区の海辺風景がひろがっていました。

この建物は、当時の細菌検査室の面影を残しており、野口博士ゆかりの研究施設としては日本に現存する唯一のものです。

